

SDGsをテーマに夏季大学を開催



の講演の公衛協活動について考
りについて考
ショットを実
施しまし
た。市町で実
施している
事業は、ど
の目標と関
連があるか
を考えた
り、目標
を達成す
るために、
できている
ことや足り
ない点など
話し合い、
その内容を
クリーンに」「13気候変
動に具体的な対策を」「
14海の豊かさを守ろう」
「15陸の豊かさも守ろう」
「17パートナーシップで
目標を達成しよう」の
6つについて、「目標4
について関連する事業名
を発表してくださ
い」「この事業で、他
の目標にも関連するもの
は出ましたか」「この事

「わが町では、この事業は『飢餓をゼロに』を入れました。」など、事業名は同じでも、進め方や地域課題の差によって、目標には違いがあることが分かりました。

6つの目標を中心に議論

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットで構成され、地球上の誰一人として取り残さない

いじりを誓つてます。国内では、企業や学校、NPOなど、身近なところでのDOSが注目されでます。女性誌に特集されたり、吉本興業がCM動画を作るなど、生活中で目にする機会も増えてきました。

社会の問題を解決するには、規制・技術革新意識改革の3つが必要で、このうち、意識改

SDGsをテーマとした講演は、ひらしまNPOセンター事務局長の松原裕樹先生にNPOやボランティア活動の支援、地域課題の解決やSDGsの達成に向けた多様な主体との協働に取り組まれている中で、公衛協活動にSDGsをどのように取り入れていくか話していただきました。

として取り組む範囲および、自治連、行政との連携はどうするのか②住民参加型の衛生害虫駆除が今日の公衛協の誕生となつたこと③福山市公衛協として学習を重ねて、できることから実行しよう等々の積極的意見が出されました▼第一歩は、公衛協の体験交流研修として、7月24日に東広島市八本松住民協議会（土久岡章治会長）を訪ねました。そこで、①土砂

(福山市公衛協会長 園尾俊昭)

住民と行政との仲立ち

琴線歌

きんせんか

昨年豪雨で我が家は床下浸水しました。降り続く雨に河川の増水。不安と恐怖を感じたものです。生まれて初めて恐怖を感じました▼じた瞬間に、「災害は決して対岸の火事ではない!」と強烈に感じました▼福山市公衛協では今年度事業計画に、「防災・減災・復興への取り組み

を続けることが大切です。

協会

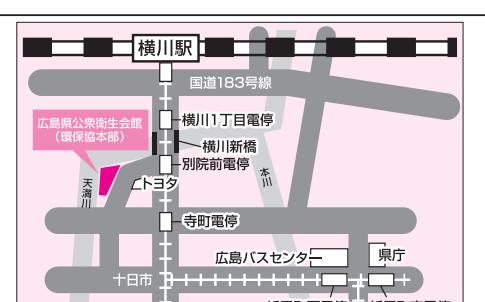
**SDGsを取り入れ事業を
協会パンフをリニューアル**

SDGsを取り入れ事業を分類



一般財団法人 ~みんなの生命（いのち）をまもりたい~ **広島県環境保健協会**

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520
かんほ



災害時の対応

環境保健夏季大學講演

昨年の7月豪雨災
催となりました。(古
も数多くの井戸水検
今回の講演では、
専門に、今回の災害
の水インフラと災害時

書からちゅうど一年が経過しての今回の夏季大学の開催で、災害時には『水』が大きな問題となり、当協会は『時の水利用』について、講演いただきました。

福山市立大学都市経営学部で浄水処理、上下水道を担当する堤行彦先生に『都市の状況について研究されてる』とあります。

となる水源が現在の1・5倍必要との試算があります。

一方で、日本は本当に水の豊かな国なのでしょうか。私たちは、昭和50年前後に浄水施設がたくさんつくられました。この施設およ

災害時の全国の水道事業体の給水復旧目標は、大体同じですが、災害後3日程度は運搬給水、1週間後までは給水拠点を整備し、3週間程度までは仮設の給水を行い、1ヶ月以上以内には通常にもどすことを計画しています。

一方で、水道は厚生労働省、下水道は国土交通省というように

調べたのですが、個人情報の関係で、調べられたのがわざかであり、もっとたくさんあるのではないかというのが感想でした。調査結果では、避難所と井戸は結構近いところがあり、避難所は、行政がすでに決めていますので、その近くにある井戸を普段から災害時に活用できるように所

参加者相互の意見交流・情報交換の場として、江田島市公衛協「ヨキブリホウ酸団子配布の取り組み」、府中市公衛連「町民ふれあいウォーキング大会活動報告」、安芸太田町公衛協「移動式不法投棄防止監視カメラ事業について」、尾道市公衛協「さわやか健康大学」の取り組み、健康新づくりを企画できる地区衛生組織の育成」、「三原市公衛協「水辺教室」の5つの公衛協が

公衛協事例発表

環境保健夏季大学は、体験交流を通して今後の環境保健・公衆衛生の向上と活動の活性化を狙いに毎年開催しています。58回目となる今年は、7月4日～5日に、グリーンピアせとうちに県内各地から、約150人が参加しました。

今回は、2つのテーマで講演を行い、1日目は

第58回
環境保健夏季大学

公衛協相互の情報交換と交流

食チェックの実践率は0・9ポイント増加

で提出された食チェックカードは、3千880枚でした。これは、全県の推進委員9千102人のうち42.6%の人が実施していました。ただいたことになり、昨年度の実践率41.7%を0.9ポイント上回りました。

実践率一位の公衛協とその実践率は、推進委員の規模別に坂町（100%）、廿日市市（69.9%）、廿日市市（63.3%）、福

令和元年6月13日から19日までの1週間、約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、毎日の食事で摂取した食品をチェックする「1万人の食チェック事業強化期間」に挑戦していただきました。

優秀な公衛協の表彰とお楽しみ抽選会を行った、環境保健夏季大学（7月5日現在）

食チェック事業速報

災害をテーマにした「災害時における水の利用」と題して講演（2面、3面で特集）を行い、2日目には、SDGsをテーマとして「SDGsと公衛協活動」と題してに講演（ディスカッション）を行いました。

参考

（この）では、1日目の公衛協事例発表と2日目の食チエック事業について報告します。

になつた」「参考になつた」と答えた参加者が

た部分を取り入れたい」「事例を聞き参考にならう」といふ。」「他の地域の又

組みが具体的に聞けて参考になった」などの感想がありました。また、参加者からは発表した公衛協に対しても激励、提案、質問などたくさんのメッセージを

台風などに備え上手に活用を

予報の延長と暴風域情報が更に詳しく



台風の位置や強さなどを予報とともに、防災上の注意を呼びかけます。

予報円（白い破線の円）：
台風の中心が入る確率が70%

暴風警戒域（赤線の囲み）：
暴風域に入るおそれのある範囲

強風域（黄色い円）：
強風（15m/s以上の風）の範囲

暴風域（赤い円）：
暴風（25m/s以上の風）の範囲

台風情報の URL (気象庁ホームページ内) <http://www.jma.go.jp/jp/typh/>

んで表現しています。台風などの気象災害に備えるため、日頃から台風情報や気象情報を使確認して早めの対応に活用してください。ハザードマップなどで避難場所を確認しておき、災害が予想される数日前には最新の气象情報を利用し、災害が差し迫っているときは避難場所への早めの移動、危険な場所には近づかない、不要な出は控えるなどの対策をとりましょう。

台風は毎年のように日本へ襲来し、大雨や暴風、高波、高潮などにより大きな災害をもたらすことがあります。そのため動向の把握や予測はきわめて重要です。

熱帯や亜熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ最大風速（10分間平均）

広島県では、過去16年の台風第18号は、広島（中区上八堀）で最大瞬間風速が発生しており、平年台風による大きな被害が発生しております。

3個が日本に上陸します。発生・接近上陸とともに、7月から10月にかけて最も多くあります。

がおよそ 17 m/s (ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

気象庁では、平成22年（2010年）6月に更新したスーパー・コンピュータシステムによる計算能力の向上や

ミャンマーをはじめとした東南アジア諸国は、現在、急速な経済発展を遂げる反面、かつての日本と同じように、経済成長に伴う環境破壊や水質汚染が発生しつつあります。こ

ため、当会の分析技術をヤンゴン市の水道技術者が習得して、水道水質管理に活用していくとともに、環境問題の解決や、水源・水環境の保護の一助となることを目的

ミ・ジン・オーさん

に、2017年に協会の創立60周年を記念した社会貢献事業として研修を開始しました。

第一回の研修は昨年1月に「水道分野に関する基礎知識研修」を実施し、第2回である今回は、採水から重金属類を主体とした機器分析（原子吸光）、データ整理・解析までの連の技能を習得するこ

とを目的として実施しました。研修に参加して「い

ミャンマーの環境問題の解決へ

水質分析技術研修に2名を受入れ



職員(右)による機器分析の説明



福山市立大学の卒業論文で研究された福山市内における避難場所と未利用井戸の場所との関係図（講演資料より）

水インフラの現状と地域が協力で未利用井戸の活用を

地球上には大量の水がありますが、淡水は、わずか2・7%と言われています。そのうちの2・14%が氷（氷河）で、私たちが使える水は地球上に0・01%ぐらいしかありません。

その約6割が農業に、約2割が工業に、残りの約1割を生活用水として使用しています。

2100年には人口が30億人増えると推計される中で、食料問題が発生し、それに必要

困っていると思います。日本の年間降水量が多いのですが、一人当たり水資源量は、人口が多いですが、一人当たり水資源量は、人口が多いので決して多くありません。では、なぜ足りていると感じているのでしょうか。それは、輸入量が6割近くを占めている食料とのかわりが大きく、実際に必要な水の量は国内の水資源の2倍という計算もあるくらいで

これからは、技術革新として海水を淡水へ下水を飲料水になどを進めるとともに、生活も変えて、飲み水のことだけでなく、下水のことでも循環することを考えないといけません。

都市の水インフラは、水道と下水道がありまます。水道普及率30%頃には、コレラ・赤痢などの水系感染症患者数が多く、高度経済成長とともに患者も減少し、水道のインフラが

豪雨災害では、沼田川系の水道インフラに大きな被害がありました。本郷取水場が被災し、そこからポンプで水を供給しているところに影響が出ました。約15万人に影響があり、給水作業が各地で行われましたが、ほぼ1ヶ月間断水が続くこととなりました。

今年度、環保協が提案する全県共通事業重点メニューの「公衛協発・ひろしま美化大作戦」では、「緑化・花いっぱい事業」に力を入れています。2020年に全国緑化フェアが広島で開催され、日頃の地域美化やアドブト事業で関係する花壇や植栽の取り組みの発表につなげていただきました。

事業の支援内容は、コンクリートアプロックの提供と花壇造成に必要な資金の補助です。「コンクリートアプロックは、当協会で强度試験を行なった試料を再利用するもので、直径10センチメートル、重さ約3キログラムのアプロックを無料

詳しく述べてください。詳しくは協会のホームページにある実施要領または公衛協事務局へご確認ください。これまでに、3公衛協から4件の申請をいただきました。活用事例を紹介します。

○尾道市公衛協（500本提供）
○海田町公衛協（90本提供）



小学校のプール横のスペースを使って花壇づくりに汗を流す委員の方々（上）育ったひまわりに沿って配置する海田町公衛協川上会長（下）



昨日の7月豪雨で花壇の被害があつた地域や、これまでの花壇のいっぱい活動に取り組む公衛協がございました

（地域活動支援センター）

試料を使って花壇をリニューアル

公衛協発・ひろしま美化大作戦に新たな取り組み

（地域活動支援センター）

の校庭に、学校の教員と公衛協・学校ボランティアの方々が集まり、約100平方メートルの敷地にブロックを並べ、土づくりを行いました。夏休み明けから公衛協・学校・住民が連携して花や野菜を植え、自然と触れ合いながら学べる場にしていました。

